雜言解

ち一丁
ぬ三丁
を四丁
わ六丁
か十丁
よ廿五丁
た三十丁
れ卅九丁

911.107
Su87lg

雅言解　巻之二

東京　鈴木重嶺　纂

知の部

ちいら
○茅原ナリ。新生トセヨメリ。
○茅一名白羽草。和名抄

ちりの芽
○塵ノゴトク微ナラヌ芽ト云フ

羽 秋あるはぎのちりくるみくれば ひぐらしの声ぞあはれなる

秋六 ちさきちりのふる秋のちりくれば つぼをつるぶくさぶしも

古長 ちくふはげしやちりぬ身につもるゆきをとりてしん 上下畧

六 風のうくよあらしさぶぬ草の身はりくすちぶたりぬべしたり

ちりうひ
○チリチガヒ(散失)ナリ

ちりぬきぐひ
○チルマギレノ意マガヒハ乱レナリ。

ちりぬぐひ
○前ニ同

ちりぬぐひ
○カタノマヨヒニナドノ

六 つもりてハ山とゝなるちりぬぐひ
古 さくらむちりかひくもれあらくのこんといつるを吉野山かな
北執 ろ葉のちりかひくりくタくれいつわる道と秋のゆくらん
万 秋萩のちりのようびたそくれる篇のあるのはるけさ
古 ひ里ゝくびるちぬぐーー梅むちりのようびふりくぢやきれく
万 うめのむちりようびくるきびようらくひすあくもまるさまけて
北執 かくくるの乃秋ーーねさくくむちりのようびふりかくしつ

マヨヒニテ。チリノ乱レト云ホドノ意ナリ。

ちりぬぐいろ
○和光同塵ノ意
○皇國学スルトモガラハ。カヤウノ意ハヨムベカラズ。

ちりぬかり
○塵ホドニテ。少シバカリナリ。

ちりぐ
○メイ〳〵ワカレ〳〵ノ意

ちりぐるま
○モノヲツミテ挽ク車

続千 ろ葉のさくくけちりのようびふ
北執 ちりぬくくづもまそびてくきた岩ゝ陸ゝつる光ちりれ
風 もとうも岩ゝやゝいつる外ちれバ月のさつもるふくるき
和本式ア かくりタん蓬ばくうだふちのゝゝれけれる庵のまてくるも
六 入りてんと紀ぞかれ〳〵きむくるれおのぶちりぐくちぬと思だ
北六 あるゝゝ世ようれんあひても恨のるのちりぐちんゝぞ起き
ろ 意ぐくをちかゝ車よ七くる面つくてくくやゝころから

ナリ

ちえ

○千枝ナリ。脯ニヨメリ。

ちはやぶる

カミ　ヒト　ウヂ

○イチハヤブル神ト云古フ語ノイヲ省ケルナリ。神代紀ニ、殘賊強暴ヲ「チハヤブル」トヨマセタリ。何ニテモタケク オソロシキ者ニ冠ラスルナリ。

ちくの浜

チ、ノミコト

ゆきあやまちかくしむそぢあまりのあぐさつむて

六

ちはやふる人をあぐとはつろはぬ國をさまもと 上下畧

八

さ月ちばちくの杜のそくぎんあつ〻ふ杜のうずごえ

ふりやつるちぢの枝をあれをこそ思ふとしめぬれば

ちくの実のちくのうちて 上下畧

○相模ニテ銀杏ヲ「チヒロヲ」ノ木」ト云ヨシ。銀杏ノ古樹ハ乳房ナス、フクレサガレルモノナリ。是ヲ「チ、ノ木」ト云ヘルハ古語ノ殘レルナルベシト加茂翁ノ考ニ云ハレタレド、乳ヲ「チ」ト云ハ今ノ俗言ニテ、此説アタラズ。六人部是香ガ著ハセル篤能玉串ニ知稙ノ実ハ松球(マツヅリ)ナルベシソハ今モ普ク「チ、グリ」トモ「チ、リ」トモ「チ、リシ」トモ云ヘリ云々トアリ。渡辺明古、此説ハ細代弘訓ノ説ナリト。同時ノ人ナレバ、暗合ナルベシ。

ちりひぢ

○塵泥ヘ。此歌ニナハ、塵泥ノ如クニシテ人數ニモ入ラヌト云意。

ぬ

○寝ナリ。「イヌ」ニ同。

ぬるし

○濕ヲ訓ム。水ニモ爪ニモ云

奴の部

ちくさのおもしろきはなぬ我ゐふるひとぶんりてがれさ

つれもなき人をやりつ〻ちくさのあくとはあぐきぬとはちるのぶん

かぶ式ア

たのもそ〻人もあれど杜のうハ目をそめぐきこち杜をよ

古

いつ〻への四季の時のこころをもるくづくしむ

夫

ぬるもあるうきくゆるもうそぎて梅はさや咲るうそ

ぬうづく

○額突クナリ。額ヲ地ニ突キ拝スルヲ云。

ぬれぎぬ

○ナキ名ヲ負フヲ云。又ヌレゴロモヒヨメリ。

ぬふハ

○菅和名沼奈波ト云。俗ニジュンサイ。

ぬさ

○幣ヲヨム。旅行スル人ノ道祖神ニ手向ルナリ。又神宮ニ奉ル幣束ヲモ云ヘリ。

万 あひ思ハぬ人をおもふハ大きものがきのきりくぬぐぐぐぐぐぐ

ハ ふくかぬ人のきもそん時ねぎぬハおりひくなつぶ今かるきぬん

ロ ぬれぎぬさくふこをぬれ衣ぬきまるぶのうのあぶぶみるる

ヨ わが身ぶくハかさめてたぶれぬれぶぶつもさてもあすぶきたきぬあるぶ

古 かくれぬ乃しくうおつるねぬふハのねぬ名ぶくじくれいくひそ

於 年毎ぬもハくれぶもぶるふおつるぬあるぶ絡ぶぶみるれ

古 ぬさくびハぬきもとうあくびもふりぶぶのあぶき神のたたくく

万 まくつくたぶたくれゆ山ぶちハふ社ぬきくちぶぶひそれ

古 まものきる素の衣ぬきをくすくく山かぜくくくうみぶるべくちれば

ロ あ素のくくて素のぬき社とわくく山のあぶきのあれぶうちる

ち 素のそハかすくくめてうんぶびくもかをぶふぬすめそのふうぶ

ロ 空のそををぬすくくさくうのひさくくやんくくがりくん

ぬさ

○織物ノ横ノ糸ヲヌキ(緯)ト云ヒ、縦ノ糸ヲタテ(経)ト云。

ぬすむ

○盗ヲヨム。ヒソカニ他人ノ物ヲ取ルナリ。

冠辞

ぬば玉

夜 クロ

○万葉ニ、射干玉(ヌバタマ)トカケリ。射干ハ和名抄ニ一名烏扇トアリテ、俗ニ云ヒアフギナリ。此実黒キ玉ノ如クニシテ、野ニ生スルモノ故、野直玉(ヌバタマ)トナルベシ。烏玉黒玉ナド書シハ、其実ノ黒キ玉ニ似タレバ、推ナ此字ヲ用ヰタルナルベシト加茂翁ノ考ニ

イヘリ。(篤能玉串六人部氏ノ考宜シ。見ルベシ)

遠の部

○山鶏ノ尾ノ中ニ長キヲ「ホツヲ」ト云。ヲロノ口ハ助語ナリ。山鳥ノハツ尾トバカリモイヘリ。モロコシ魏國ニテ。山鶏ヲ飼フテ鳴カザリシニ。鏡ヲカケ置タレバ鳴キタリト云故事アリ。

○前々日ヲ云。今モシカリ。万葉ニ前日トカケリ。

○前々年ヲ云。今モシカリ。万葉ニ前年トカケリ。

○遠キヲ云

○遠近。又彼此ヲ訓ム。

○サマ〳〵ノ説アレドウケガヒガタシ。宜長云。ヲチトハ初ノ方ヘカヘルナリト。万葉ニ。クスリハムトモマタヲナメヤモ。又「ザケルナデシコ云々」イヤヲチニサケトアリ。皆初ヘカヘルノ意ナリトゾ。

時延ニテ。時ナガクッ

210482

ドク意ニ。かざ―抄ニハ。コ、ダコツ」ト訳シタリ。此歌ドキニハヨク當レリ。

を（枯）ゝえくゝす

○クタスハ爲朽ナリ。斧ノ柄ノ朽ルハ。晉ノ王質ガ故事ナリ。

（古）あけくれば　春のきりの人ぬしうたゝ　谷のもとに　枯てとられ

（今）斧のえかこのりとすてや　朽れやすきを　知るぬ　桜ちりせぬ

（万）ゝ安ハをのえくゝる山ちれやいるとふ人のあづれもきぬ

を（枯）やゝ

○ヲハ發語ナリ。ヲニ意ナシ。小止ノ義ニハアラズ。

（今）やくゝぎんゝ　ちぢふ　ふ　あ　ち　を　や　ぐ　こ　ま　ぶ　れ　の　元

（玉）たれめ　を　ア　つ　あ　の　ゆ　ゝ　ふ　を　や　む　も　社　つ　く　ゆ　ま　よ

を（枯）げ

○苧筒ナリ。今俗ニ「ブゴケ」トイフハ訛言ナリ。

（方長）をゝめゝ　ぐ　を　げ　め　ゝ　れ　る　う　み　を　ち　ん　ま　つ　ゝ　ふ　上下果

を（枯）ゝ和

○ヲイミコロモ（小忌衣）

（万動）をゝゝ　ゝ　ゝ　

わらけ

○衣ノ破レサガリタルヲ云歌、うつほ物語ニ、タダビラノワラケタルヲ着テトアリ、此意ナリト畧解ニ云ヘリ、

わづの世

○自分ノ生涯ニアリフルホドヲ云

わづの世子

○夫ヲイフガモトニテ、古クハ、兄弟朋友ノウヘニモイヘリ、

わのえ

わのゆ

○ワカヤグナリ

為佛ナリ

○公私ノ私（ワタクシ）ナリ

世ワタリナリ

○産業ヲ云、草ノ名ニアラズ、

わたり川

○三途川ナリ

われて

○前ノワリナシノ意ニ
粗同シワレテモ未レニ
ノ御製ハシヒナモノ
意ト聞ユ

われうら

○我故ナリ

○ワレカラト云ハ藻ニ
ツキタルチヒサキ貝
ナリト云又ワレカラ
(破殼)ノ義ト云説モア
リ

わゝ

湧ナリ

わくら川

○箕和名和久ラ
具ナリ始ノ歌ハ水ノ
涌クニ通ハセタリ

わくらば

○タマサカ

○古今ノ歌ハ遠鏡ニモ
シシゼシト問チクレ
ル人モアッタラバト
譯セリ

わざとも

○モトメテデナク

○此詞歌ニハ少シ

わぎて

○ワザ〻〻

○是モ文ニハアレド、歌ニハマレナリ、

わぎと

○業トナリ、職分ニノ意、

わさ田

○俗ニワセ田ト云、早稲田ナリ、

わきて

○トリワケテ

わぎへ

○我家ヲ紛メタルナリ、

山家集 あさまだきをしげる峯あらしに吹あつめられわぎとけぶりの消るまぎれを

万 わぎもこがわぎとつくれる杜田のもとそびのかつ〻これどあぬるも

拾 うちつけに君がき大和たるふるのわさ田のおもひ出つ〻

後拾遺 わ〻ぎんあまつ山やゆうつの田はさまくるさでむらん

俗 いつとても月こぬ秋ハあれどものをわきてケさのめづらしきかな

夫木 ゆきの中をわきてけるやゆつむいそのとの〻社のもりぞ

万 ゆきもれわきくるぐるこゑのむわぎくのこのまもれてちるこゆ

ガイノ約ギナリ

わしの山

○佛経ニ云靈鷲山ナリ、天竺摩竭陀國ニアリ、

わび

○ナンギ

○ワビヌレバハ難義レハテタレバ「ワビテ」ハ「ナンギシハテ」ナリ、

わびしらに

○ワビシサウニ

○ワビシゲニ

○ナンギラシク

続古 わしの山いつますこる月あれど入てのちも世をてこそしん

拾遺 ゆきの山やまのはちもちわきつてのはもおるべうらもれ

古 わびぬれどしひてもそれんと思へども君といふすのぞ人ごゝある

日 君まつわびてをしひやどひるぞむ有きあ〻の名ゝやもそしん

古 うぐひすしらふはしらなきそ是ハの山のひあるうかやハあぬ

拾 紅のふまあてふまれをわつれバわびしらる社むしもちきうま

ワせ
○早稲 和名和歌

ワすれ草
○萱草 和名和賀礼久佐。ワスルヽ一ニ此名ヲカリテ歌ニヨメルナリ。故ニワスルヽ草トモイフ。

ワうくさの
ツマ
○若草ハ。メヅラシクイツクシマルヽモノナレバ。若キ妻ニ云ヒカケタリ。

ワごこひゆ
クラブノ山

万 をゝめふりあひのわせをこうかけふかうあをゝしゝ穂のむさく
夫 大御田のゝ中のわせの神をもの祈のみ中ろふをふをゝかけふ

伊物 つゝもたなきゝ人をゝげくバわすれぐさあのがうくゝぞおわといふなる
続千 うきゝ人のゝんぐゝものわすれぐさいつらが中よちぐるゝをあけ暮し
ほ あをゝとハいふものかゝふゝもゝわぐゝをすゝゝゝの花ゝやうあぬ

冠辞の部

古 ちゝはやぶるかけふハれやきそわゝくゝものつゝもゝるめう我よこるれり

占 わがゝゝよくゝぶの山のゝゝゝふゝかゝちゝゝゝうぎハゝゝゝゝゝゝゝゝ

○我恋ト散ル花ノカズトヲクラブト云ヒカケタリ。

わいつゝ代
アカキ
○ワタツミハ蒼海ナリ。ヨリテ深キト云ヒカケタリ。

わぎもゝ
アフチノ花
○アフチハ楝ナリ。妹ニアフトカケタリ。妹ハ恋フ所ノ女ナリ。

わぎもゝが
スソ野
○妹ガ裾トカケシノミ

万 をゝゝの海きゝんほちゝちゝゝゝゝみられあゝるものふざりくる
万 ゝゝぎもゝのふあふもの云ハ妻すぎぬいつきゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
射物 わぎもゝみゞすゝ敷ゝゝ夜ゝゝ夜ゝゝハむすゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

加の部

かいたれ附
○彼ハ誰ノ意。カレハタレト見ワカラヌ暁方ヲイフナリ。

万 あゝゝゝきゝのかゝゝんけよゝ為ゝゝゝをゝぎゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ヒニ 甲ゝゝのくゝゝぎゝゝの彩ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

うい

○彼ハナリ。前ノカハニオナシ。川ト云フ言葉ニ通ハセタリ。

うぐま

○尸ナリ。死セル人ノカラヲ云。姓氏ヲモ亦カバネト云ヘリ。

かもや

○瓦葺ノ屋ナリ

かもしけ

○苦竹和名加波多計。俗ニ「マダケ」ト云。

古 思ひどもひめつゝみのこもれどかはにこそ社わたりぬ

川ヲカヌ かもとゆくてやまぬ中よ流るゝはいまであるつゝもこゝろ

於 やすあみぞかぎりもあれぬあひぬるを我をばこゝろうんとまゝん

日 そがんうつゝんものかりゝやのゝさわらぐゝそづつわきかゝ

年中 本枝よそのゝ川作かゝまちにあびけどそいかゝゝぐらゝ

川ヲカヌ よそゝろゝ平ゝのゝ屋ゝ川ゝけのひゝ東のつゝうゝきかゝれ

かもそび

○川ソヒ道。河ソヒ柳ナド云ヘリ。川ニ附キ沿フ義ナリ。

かもしら

○蚊杜ナリ。蚊ノムラガリタツヲ云。

かもやしろ

○顕昭ノ説ニ。夏神楽ノ時ニ川ノ上ニ架構ク神ヲ祭ル棚。

かふうく

○トニカクト云フニ同シ

新続古 さゝわ山のゝこゝもゝ雨ハもゝ雨ひきて川ゝひ柳ちふえびきよゝり

新六 ゝゝこゝのゝをゝるゝ川ゝひのあゝらのかゝをゆきあゝるゝん

於 ゝゝもゝうきゝ待ゝうゝをゝの柳ゝにいゝゝゝびゝとゝゝゝるゝ

新古 川やゝろもゝのふゝとゝりゝゝんゝ衣いゝふゝをゝゝゝあゝうひゝゝうん

大 かゝゝ社あゝきハゝすゝゝゝあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

万 かゝゝうゝふりのハゝゝびゝ親人のゝゝ墨縄のゝゝゝあゝすゝゝふ

同 ゝゝ山のゝのゝゝかゝハのゝゝゝ面かゝまゝうゝふゝゝゝゝゝゝゝ人のゝ

かよいさくら
○宣長云、和名抄ニ、朱櫻
仁波佐久良トアルハ、加ノ字ノ落タルニテ、加仁波櫻ナリ、今加波櫻ト云フハ、此仁ノ字ノハブケタルナリ、

古物名 かつけども波のあわはきくるあれて浦づたふ舟づむ

がふ
○ヤウニ、又云〻ノ為メ

古 櫻ちれちりくひくのれ老らくのきんといつるる道さどかがふ
枕 山さくふちるくさもぐれちくきんちるきぬときくびつげふくるがふ

かホゼな
○契沖云カホ花ハウツクシキ花ヲイヘリ、花ノ名ニアラズ、

万 そもどの耶ぐのかるぞれおそうけふそくいもハヤすれるひつも
月 るけくのやくふあひくるかるふれをそくみるるるくてくれば

かほとり
○ウツクシキ鳥ヲ云トリノ名ニアラズ、

六 くるれるのやちくきちぐるるの此はるの根ちぐき立もするれ
夫 あくハ山くのくく落ようるるれくくんかくれをくあるの此さ

かへるさ
かへさ
○谷ニ云帰リガケナリ、帰ルサマナリトイヘド、はハ軽ク添ヘタルナリ、行クサ來サナドヽモ云ヘリ、

かへす
○田ヲ翻スナリ、耕ノ字ヲヨメリ、

かへす〳〵
○クレド〳〵
○イクタビモ〳〵

かへし北風
○南ヨリ北ヘナド吹返

今 きのくるの此田くそくもかくさハちくぐふくくるはちみでみるる
千 かくくをいくりぬちぐのるくくばはどくふ家の此ハるくるもし
枕 山さくくくんのやふふるぐよきてかくくそくものるぐいくくく

ち 黄山田をいくくきかくくくくくくる人のくくくるよるくて社やくめ
仁二 厂のみくくきの山田ハくくくせよかくくくくる社みるひくくる元

古 かくくくくくく

ス凡ヲ云

かべ

○夢ノコトヲイフ。多クハ壁ヲ兼テ詠メリ。「ヌルマ」霧ル間ニ見ル故壁トイフナラントノ考アリ。當時ノ諺言ナルベシ。

かへり

○十二月十九日ヨリ三日間佛多會行ハレシ。此時根嶽ノ庄ト云処ヨリ酒ヲ奉ル。之ヲカヘナシトハ云ヒシ。宝亀五年ニ始リシトゾ。

かへりて

○却テナリ。帰リテヲ兼ヌルコトアリ。

かどふ

○俗ニカドワカスト云。カスメ取ルト云ニ近シ。

かどり

○謙和名加止利。ウスギヌヲ云。

かち

○歩行ナリ

かぢ

○楫ナリ。又穀桑(カウゾ)トモ名ク。俗ニ云カヂウゾナリ。

かるる

○疎ク遠ザカルナリ。万葉ニ離ヲ「カル」トヨメリ。

かゝぐ

○カキアグ(帛巻)ナリ。キアノ約ハナリ。又裳裾ニ云)ヲモヨメリ。

かゞぶ

○和名抄ニ、輝ヲアカバリト訓ス。手足ノ坼裂セカバルハアカバルナリ。

かゞふく

○和名抄ニ、嘯ヲヨメリ。鶯ノ声ハ我久くくト聞ユルモノナレバカゞハクト云フト畧解ニ見エタリ。

かよふ

○通ヲヨム。證歌ノ撃の

山里ハ多くぞさびしき人目こそかれぬとおもへば

わくの陸くぬ年ハ来あれど多くのかれふ人ハかくれもきび

秋つくくりちきあの大くふくれくるかゞみもくん

いわつけばかゞるあゞをくくひもものくやくあゞくをて

つくほゝかゞをやしーの白をのくかきわくるんけて

秋のくくの風かくくしくれのをくくきくべるあけむ

ねノカヨフハ行通フト似通フトヲカネ、遠近ノノカヨフハ行通フノ義ノミ。

かゞしき

○衣ヲカタシクハ猶嵌ヲ云。ワガ衣ノミシテバナリ。

かゞみ

○答箐和名加太美ザグ籠ナリ。神代紀ニ、無目籠(マナシカタマ)トアリ。古今集ノ花カタミナドニ後人筐ノ字ヲアテタリ。

かゞみ

○タガヒ(互)ニ同シ

えぬ埴

上を山のくゆをバ波のくの風ぐくくれとかくふハ花のいくくぐくるふ

古

山ぶきの花ハ多くぞさびしき人目こそかれぬとおもへば

日

わくの陸くぬ年ハ来あれど多くのかれふ人ハかくれもきび

大

秋つくくりちきあの大くふくれくるかゞみもくん

佐

きくくめぐきのくけくくく

かいなぶり

○俗ニ形見トカヲ、遺物ナリ。

うはぎぬ

○肩ノヤブレナリ

○紬（万手布又手織）アシキ布ノヤブレントシテ、糸ノ一所ニヨルヲ云ヘリ。

うらぐ

○ベツ〳〵（別々）ナリ

うらぎぬ

○片時ナリ。シバシノホド ニ同シ。

かくれ（古）

かくれこそ今ハあくれそなくバ中なることもけうきもまさ

いひそめし（ほ）

いひそめしもとのやどのかきつばたをぐうら社かさしもそれ

あくれ（万）

あくれ行ひさきさやけかくのやまひをこそわくらん

あくれ（新改）

あくれ衣かくのまよひくもハとそもたくぬるこゝろ

不の帯（古）

不の帯のうちハかぐやつゝこもりめぐりていけるんとそ思ふ

かぎり（子）

かぎりなくて人いうぐやつゝる間をぐるとそ思てゝれ

かさとき（ほ）

かさときもこゝハきき男をおきてけやゝや衣ぬよねぬん

かはぬ（新改）

かはぬんとバ思ハしまとりつるんどかと吋のまもやチんやハ上る

かくそぎ

○千木ノ片ソギト云、神殿ノ屋ノ棟ノ上ニ、打月チガヒニシタル、ソギトガラセタル木ヲ云。

うはつ

○他ノ事ヲ為シナガラ、物バ待ツノ意ナリ。

うはち

○武士ノ腰ニ帯ブルカタナ。片刃ハノハナリ。ハナト声通ヘリ。又偏ハナト云。剣トハ異レリ。剣ハ両刃ナリ。

薙カタナ ナギノ器ノ義ナリト云。

のさらひ

○諸リナリ。ラヒノ約リナリ。ラヒハリノ延ビタルナリ。

かくそぎ（新古）

かくそぎ衣やうすきかくそぎのゆきあひのやまにやあくらん

やづらひ（万六）

やづらひはちぎのかくそぎこゝろ乃こゆるあるで年のつもりぬるか

めづらし（万）

めづらしさ紀ちる雪をよゝれゆうんきみがつゝひをかさまちがてゝ

かすてはゝ（六）

かすてはゝあハきりつゝもひとのこゝろをいうぐこのちう年

人ハわれ（新六）

人ハわれまろさよとぞるとがれ世ろろりれぬ月とぞあるはし

ひとそうれ（夫）

ひとそうれあぐかくしあのかれさふかくひろんきぐみぐ

かいらふ

○カタル語ヲ延タルニ。物語ブミナドニ。何ガシヲカタラヒテトアルハ。其者ヲ頼ムノ意ニ。

うるおちの

○斤田舎ナリ。伊勢物語ニ。昔カタヰナカニ住ケリトアリ。片山里ナド云フニ同シ。

うるおざる

○嬰兒ノ井ザリアリク(膝行)サマヲ云。

うること

○小兒ノトヽノハヌ詞ヲカタヽ言ト云。今云フニ同シ。

うれいひ

○乾飯(カレイヒ)ナリ。和名抄ニ餉ヲヨム。今俗ニ云「ベンタウ」ナリ。

かれぜ

○ウトヽシカラズ

○ブサタセズ

うぞいろと

○和名抄ニ父ヲカゾ。母ヲイロハト讀ム。又カゾイロトモ云ヘリ。

うぞなき

○カスカナル意ト聞ニ

かつ

○彼ト是ト処ニ至ルヲアラハスコトバニ。故ニ遠鏡ニ彼一方カ

ヲト訳シタリ。

かつ
○歌ニヨリテ「チヨット」トモ訳スベシ。

かつぐ
○ハツ〳〵
○マア〳〵
○スコシバカリノ意

かづく
○水中ニ潜リ入テ水ナリ藻ナリカヅルト。

○文学ノ試業ニ及第スルヲ云。晋ノ郤詵ガ故事。

○カネテハ豫メナリ。此歌ニテハ其時ヨリサキヲ豫メ計リテノ意ナリ。

○アラカジメナリ。俗云マヘビロ。

○豫テ契約ヲ云ヒタル事トバ。

うふ戸
○カネノクギ戸ヤモテ堅ムル故カナ戸ト云、門ヲカドト云ヘルモ、カナドノ畧言ナリト千蔭云ヘリ。

かたへ
○門和名阿之加奈倍。
○説文ニ、三足両耳、五味ヲ和スル空器ナリトアリ。食物ヲ煮ル「ナベ」ノ類ナリ。

うなふ
○適ノ字ヲ訓ス、俗ニオナジ。

あかし
○悲歎ノ意ノ「カナシ」ハ、別ニカハル「ナケレバ」省ク。此歌ニ云フカ

方 かれぐ〜人のねぐらぞあやうきたち〻ならべ物てぐあてたふ
万 ちをを川タわくるきそわきもあぐ宮のかそどにちづきみろう
於物名 ゆの國のふるもそやうふつくる風ハ行こうまくとそ社こわう祢
万 あきくづふ角のるもをんと月まてぐ〜れもかまひぬ今ハこぎてれ
仁木 わすれぐさとおりのさく社ちつとかまちぬ多まかかまひざうれ
於 わびくいふきせ世もふいそしとおもつくとくかまハざうん
古 ちのくにはつづくハあんど陸ぐ所のくくぐ紅のつるでかまひも
別勅 せゆハ いるがれ紅きそくぐあるのとみのつるでかまひを

ナシハ愛ル心ナリ。

から
○ヨリ直ノリ。今云カラニ同ジ。

からふ
○云々スルヤイナヤ。
○云々スルト共マニ。

からふや
○ユエニヤ
○ニ因リテカ

からし
○辛苦ナリ。俗ニ難義ト

六 海のあまのくるかくるゆゆハまそのちくぐやあくとまくうん
元 くゆくぐのふぎたちよは風のくくーかくくふ紅きぐ居ちよ世そう
古 吹かくふ杉の子本のちをそれバくぐ山くを紅あくしといてん
日 すくうのえの杉を杉くぐ呼かくふちをくちそうるわきつまくを居
続ほ拾 男ひくくくくくつ四かくくるやヤ千ぐの居ち愛くくちりぬべくかる
玉 ちくう人のえくくつ四かくくるやさくうみて月のつくるもねいちくくん
古 おくくくうや弦所のくくるよやくを居ちかくくくもわれハ者くくるみぐ

云フ。

○彼ノナリ。俗ニ云アノ
ウノ
ニ同シ。

かめこ中ざら
○鹿ノ毛ノ斑文ヲ云

かくろ〳〵
○カクレ隠ヲ延ベタルナリ。ロ〳〵ノ約ルナリ。万葉ニカクロヒトアリ。古言ハカクリトイヘバ。ロヒハリヲ延ベタルナリ。中世ブリノ歌ニロヒトヨムハワロシ。

かくろふ
○隠ルノルヲ延ベタルナリ。ロフノ約ルナリ。

かくれ笠
かくれ蓑
○世俗球宗ノウチニ加ヘタリ。此ミノカサヲキレバ。形ノミエヌヨシナリ。○神武紀ニ。蓑笠ヲ着テ正身ヲカクシ。大功ヲ遂タリシヲ見ユ。

かくどうり
○コレホド
○コノヤウニ
○又「カバカリ」トモツメテ云フナリ。

かくて
○カウシテ并ナ
○コノトホリデ

かぐさし

○馨又ハ芳ノ義万葉集ニ香細ト書ケリ。今俗ニ「カウバシ」ト云ヘリ。クハシハ褒ルコトバナリ。花クハシ櫻ノメデ」ナド、アリ。

うくれぬ

○隠沼ハ草木ノ茂リオホヒテ、アラハニ見エヌ沼ヲ云ヘリ。

かけて

○心ニカケテナリ。物ヲ掛テ橋ヲ懸テナドニ通ハス。

かけて

○是ヨリ彼ヘカケテ

かけ

○ロノ端ニカケテイフ」ト云フ畧言ナリ

かけ

○鶏ヲ云。カケトハ鳴声ヨリシテ名ケシト云ヘリ。家鶏ノ音ト云フハ非ナリ。又伊勢物語ニクダカケトモ云ヘリ。百濯鶏ノ畧ナリト云フ説アリ。

かける

○翔ルナリ。鳥ノ飛ビ回ルヲ云。

かけご

○箱ノ脇子(カケゴ)ナリ。俗ニ懸子ト書ク。

○磯道(かけゐ 柳ノ名ノ如ク知ル)

○山ノ懸崖上ニ沿ヒタル道ヲ云。

かふ

○水カヘハ水ヲノマシムルナリ。草ヲハマシムルモホカフト云。共ニ牛馬ナドニツイナ云ナリ。桃草紙ニモ草ナドカハスルコソイトニクケレトアリ。

かこつ

○カコツケル。カヅケル

ナドノ意託ノ字ヲヨム。

かごと

○假言ナリト云。カコツニ粗オナジ。

かとばくり

○カコツケガマシキナリ

かをばくり

○イヒワケバカリ。

○イサヽカバカリ。

かごめ
○香籠ノ、香ト共ニノ意

かこふ
○園フナリ、俗ニオナジ、

かてふ
○勝ヘカネテ
○コラヘ得ズニ

かてふ
○難ヨヨム、云々為シ難サユナリ、故ニ此歌ニ日テハ、消ゲタク過ガタク、又消フレヌヤウニ、過ラレヌヤウニトモ

訳スベシ、

かてら
○兼ナガラナリ、古言ニハガテリト云、

かきふす
○カキナラスニ同シ、躍ヨヨム、即掻キ鳴スナリ、

かきつむる
○カキアツムルナリ、書集ムル、又撰集ムルニ通フ、

かしがび
○サビハ進ム、心スサビ

我やどの草ん[illegible]ふくる人は[illegible]ぞこひしかるらん
夫のぞりゆけくるる山は[illegible]ぞ思ふ[illegible]
古 秋ふかき[illegible]琴の[illegible]人こひしかるらん
あきのくふ人をもつめてはれてくこひしぞ琴の[illegible]
四 かきつめてあやうのたくものうひも今はかひあきらみぐみせど
野徒 [illegible]をとふれよいそやしりわ子かきつめてぐふあぐきやとん
万長 やすらはやすらはやすらはやどのあやきみ弥あらはかんさびせんとそ下異

千スサビノスサビニ
同シ。中世以後ハモノ
フリタル意トセリ。

かしがま
○ヤカマシイ
○ガヤ〳〵ト
○囂喧ナドノ字ヲヨム

かしらの雪
○白髮ニナリタルヲ云。
頭ノ霜トモヨメリ。

かしぐ
○炊ヲヨム。米ヲムンテ
飯ニスルナリ。

かじき
○雪屐ナリ。俗ニカンジキト云。

かし
○戒柯和名カシ。所以繫舟トアリ。舟ツナギノクヒナリ。今カシラツクトイフハ古言ノ殘リタルナリ。

かひこ
○卵ヲヨメリ。又蠶ヲモ
レカ名ヅク。養兒(カヒ)ノ義ナルベシト士
清ハ云ヘリ。

かび
蚊遣火ヲ云。又猪鹿ヲ
追フベキ假庵ニタク
火ヲモ云フメリ。

かず〳〵

○数々ヲヨム。多クヘ、歌ニヨリテハシンセツ何カニツケテナド訳シテ其意ヲ得ベシ。

かずうく

○行ク水ニカズカクトハセシナキタトヘイクラカキテモアトモトヾメヌヘ。

古 けふかずかくにわれをそへあぬはるゝば山のかすみをあつみとハよ

日 うずくふめるひとりびでこゝ身をとる為にてさきれる

後拾 かずくふきやうをとつるも人をこゝんこのそでゝ

古 けふうずめくよるもそうるさとゝ思ひめ人をあるゝ山をも

新古 そかふしやさてもいつあるけるふ新きやづるとのひとゝ

冠辞の部

かさづるく

カミヅビ川

○神南備川ハ大和平群郡ニアリ。此ノ名所ナレバカク冠ラセタリ。

かるうやの

ミダル

万 かさづるくうつゝふび川よかゞゝえてつまやさてゝん白つきの谷

古 まそそれど何ぞりまるやの乱まてあれどなくも新

○荊萱ハ丸ルヽ故云フノミ

から衣

キナラノ里　タツ

ヒモ

○キナラハ衣着馴ストヽ云フ意ニ通フ。又「タツヒ」ハ裁ツ日ヲ立ツ日ニ「ヒモ」ハ紐ヲ日モニ通ハセ云カケタリ。

万 から衣たつたの里の時雨ふりまをつゝんよきひとゝがを

古 うゝ衣たつたひかたうゝ新やまのあきてゝゆるぞけめぐきのを

日 かゝ衣ひもゆぐわくよるゝ時ハかくまくぞひとゝをひ花

からふしき

タツ

○錦ヲ裁ツト云ヒカケタリ。

古 あのふどちきそるあいかゝ織ゝきとゝきのそでゝ

かんうぜの

イセ

○神風ノ息ト云ベキヲイノ一語ニ云カケタリ

万 かんぜのいきの侵荻とうをてるびとやすゝんけき侵ぐふ

かげろふの

ソレカアラヌカ　岩

カキ潮

○万葉ニハ「カギロヒト」

古 かげろふのそあるめるまるのる人きれぞ神うめわるる

後拾 うゝもあやかうゝのいそ侵潮のそくの玉藻ハ

ヨメリ。又「イトユ」トモ云。唐土ニコレヲ遊絲野馬ト名ヅク。春ノ空ニ糸ノ如クウラ〳〵ト見ユルモノナリ。故ニ春モユル水ノカナド冠ラセタリ。岩垣フチヘ冠ラセタルハ。石ヲウチバ火ノ出ル故。カギロヒノ火ヨリ云カケタルナリ。

かミまつる　ウヅキ

○四月ハ神祭多キ月ナレバ冠ラセタリ

かしき木の　モリ

○柏木ノ森ヘ。濡ハ同声ナレバカノ云カケタルナリ。

かしの実の　トリ

○椎ノ実ナドハ聚リテ結ブヲ。櫟ノ実ハ只一ツヅヽナルモノ故。シカ冠ラセタリ。

よぐふ

○嘆ヲ延ベタルナリ。

與の部

よに

○世ノ中ニ決シテ

○ケツシテ

よぼろ

○丁ヲヨボロトヨヘ。今云フ人足ナリ。又仕丁ヲモシカ云ヘリ。

よゝもに

○世ト共ニ。後ニ夜ト共ニノ意トスルハ違ヘリ。

よど

○水ノヨドミタル所ナ

リ。激ヲヨム。

よどめ
○夜殿ナリ。寢殿ヲ去ヘリ。

よどこ
○夜床ナリ。寢所ヲ云ヘリ。

よ至〳〵
○トキ〳〵ヨリ〳〵ナリ。古今ノ序ニ。片糸ノヨリ〳〵絶ズヅ有クルトアリ。

よるべ
○ヨスガニオナジ。依リ

たきつせの中なるよどハ行くそらもなくヤグ音のみちせもたきき

おく山のなるつきおきを見てハ考ゲよどのに相こうれを見ゆや

ひけた社のきれつもれるあやめを多ゲよどのうねをとゞむん

竹ちうくよどこをハせゞ学れあく赤きけハ紅いせ〳〵ぶぞ

人ハうざあるぬよどこふとめてるやゞころ社我をもつ〳〵えん

いもゞくるいもるの甲のたゞ紅よりくこゝをやゞうぬゞ〳〵れ

よるゞあ〳〵ゞを社〳〵りくゞ学こうれ人ハきみゞかげとあり。き

頼ム所ヲ式。

よるハすゞ〳〵
○ヨモスガラニ同シ

よるせ
○流レ寄ル瀬ナリ。ヨルベト云フニ同シ。

よる代ゆ〳〵き
○義ナルモ人ニシラレザレバ其カヒナシト云フタトヘ。史記項羽本紀ニ。富貴不歸故鄉如衣繡夜行ト。此詞ニヨレルニヤ。

よをこ免て
○夜ノウチカラノ意

ほとゝぎすなくあやめ草ながき根のこゝろをしらぬ人にかたらん

こゝしらぬ〳〵すゞわざあ〳〵ぬゞをゝのよるハすゞ〳〵ふゞ〳〵ゝ

大ぬきと名ゝ社〳〵れ原ゝもつひよりをハ行ゝてふすの成

ほとゝぎすとバつふけ〳〵ん大ぬきれよりせゝもゝぬ名の多りあれ

見ゝる人もあゝてちゝぬゝ美ゝのゝゝゞハよりゝの弾ありゝゝを

見ゝくゞもあゝやちゝとけゝゝいゝゝゝんゞよりゝのあ死のゝゝち社すれ

夜をとゝあゝてゝりのゝゝねハをゝ行ゝゝよゝゝあゝ山梅の実ハゆゝゝし

よ 城のこす
○明ケテ後モ、猶夜ノケシキ残ルナリ。

よ 弱し
○弱シ、俗ニオナジ。

よ 夜離
○夜離ナリ。離ハカルヽナリ。遠離ルヽナリ。疎遠ニナルナリ。人目ハルトノ意ニオナジ。

よ 男女ハナレどゝ二世

ゆ 北
ちの〳〵ゑ〳〵おきてゝゝゝれば さゝ〳〵もむさゝと夜をこめ
ちゝよゝゝ

夫 ゆゝゝゝゝゝゝゝ
ゆゝゝゝゝゝゝゝ

よむ
○カゾフルコトナリ。今モ商人ナドハ、數ヲヨムト云ヘリ。

よれつ称
○尋常ヲ訓ム。ヒトヽホリ。セケンナミナリ。

よく
○ヨケル。又サケル」ナリ。ヨカナン」ハヨケテクレロノ意。

よこ雲
○夜明方ニ棚引ク雲ヲ云フ

よこしぐれ
○風ニ吹レテ横サマニ降ル時雨ヲ

よこぎる
○雲霞ナド横ニナビクヲ云。横ニワタルヽ。

よぎみち
○避路(ヨケミチ)ナリ。万葉ニ曲道ヲ訓ス。本道ヲヨケテ通フ路

よゝ
○黄泉ナリ。神代紀ニ「ヨ

ミノ國ヨモツ平坂ナド見ユ、又ヨミヂトモフハ、間路ノ義ナリトゾ、

よミがへる
○蘇ヲ訓スヨミヂガヘル、即チ生カヘルナリ、

よし
○ヨシ〳〵
○マヽヨ

よしや
○ゼヒモナイコトヂヤ

よしもし
○タダテガナイ

元禄 わく〳〵でふつきてもこゝろ物あつばよく〳〵がてこゝてもあるやこゝもん

古 萩のつゆ玉なのゆうんとやれだりぬよ〳〵こん人ハ枝もあづくこよ

枕 ゆ〳〵しさ玉とゆ玉のようでつるびなんとさこん

古 吉野川よしやゝ人こゝをつゝうめそやくいひてみこハやまみど

同 あつがていりゆ世の山のゆるあつるよしれる川のよしや世の中

古 はるゝのあるあるよまけるふくぶ川秋のくひぢてあくよしれ

同 非 生をゆ〳〵人をこゝめんよしあさふとをりのかたこれとひぬこれ

よしもがれ
○チダテノアルヤウニシタイコトヂヤ

よも
○ヨモヤ

よも代海
○四海トカキテヨモノウミトヨムベシ、夫木ノ新六帖ナドニヨツノウミトヨメルハ誤ヒ、

よもぎぐしよ
○蓬萊島ヲ式、唐土ニテ

古 しきのあるゆの新ゆ秋かぐてふこるあふ人をあくこもこれ

同 愛しきのやるくこゆぬかゝ衣こゝろ愛びてあるこもこれ

はれ かゝくこゝをゆちくこよかくこゝぐこよるこぐこうこハやまこれの里

懐古 つひのこきのふいこるぬくこまこよるかくこるふ

全 ゆ〳〵代の杉のくいたこよあくこ岸のつゝうてよこのはこあるきぐ

大 ものよあ愛ぐくこまぎこみ浦ひこくこ今きあ代は君ぐこくこん

月清 ゆ月のあひこくこすあここるあひてよこゆこゆ海のゆぐこもあるハぐ

ハ之ヲ渤海ノ東ニアル三神山ノ一ナリト說ケリ。我国ニテハ或ハ摂津ノ住吉ナリト云ヒ或ハトコヨノ国ナリト云ヒ或ハ富士山ヲ指シテ云フナド諸說マチ〳〵ニシテ一定シガタシ。

よもぎが杣

○蓬ノ生茂リテ杣ノ如クナルヲ云。杣ハ山ノ林ヲ。

よもすがら

○終夜ナリ。ヨモスガラノ中ハ昼ニ對シテ夜モト云ヨシナレド、終夜ヲ「ヨモスガラ」トヨメルヿ常ナリ。又「夜ハスガラ、サヨスガラ」トモヨメリ。

よすがら

○前ニ同シ

よすず

○明鐘ノ意ダヨリニ

スル所ナリ。

多の部

たごうり

○ハカリゴト

○イツハリ

たどしる

○タハ發語ハシルヲ。

たはる

○戯レ狂フナリ

たとれめ
○遊女ノ云、又「ウカレメ」トモヨブ。

だふ
○サヘ
○デモ
○ナリトモ
○モ

たへ
○コラヘル

たへぬ
○コラヘラレヌ

たど
○闇闇ナリ。暗夜ニ燈ヲナクシテ行キナヤムガ如キ意。

たどたどし
○タドリ〳〵シナリ。足下ノ分ラズシテ探リナガラ進ムノ意。

たち
○立所ナリ

○俗ニ同シ　たちおち

○立枝ナリ　たちえ

○軒ナドニ垂ルル水ナリ　たれひ

末摘ノツラヽハツラヽモ云ヘリ　ツラヽ

生草等ニカケテヨメリシ

○手明ナリ　たなあけ

ヤメ、ト云ヘリ　ヤメ

ヤメ、ト云キ詞ニハタワカキ

○撓ナリ　たわむ

○タワニ同ジタワハナリ　たわ

トヲヽトモ云ヘリ

○耕ヲ制ス野ヲ云ヘリ　たがやす

○便ナリ　たより

云ヘリ　タヨリ

○カヤハヽ　かやは

○カヤハヽ　かやは

たゞに
○イタヅラニ。俗ニ云ムダニナリ。

たゞち
○直道ナリ。和名抄ニ徑路ヲ訓ズ。又直ノ字バカリモヨム。

たゝる
○祟ヲ訓ム。俗ニモ神ノタヽリナド云ヘリ。

たゞよふ
○漂ヲ訓ム。雲・波・船ナド。ドナタヘ行トモナク浮ブヲ云。又人ノ身ノ上ニモ。世ニタヅヨフナド云ヘリ。

たゞおらぬ
○ヒト通リデハナイ。タヾデハナイ。事変リテ并ルノ意。

たれとなく
○誰トサシ定メズ

たつ
○立チ退クヽ。立ツヲ裁ニカケテヨメリ。

たづき
○手着ノ義。便ノ意ナリト云。ダツキモシラヌヤウハ。紫門モ知ラヌナリ。

たつき

○和名抄ニ鐇ヲ訓ム、樵夫ノ用ヰル廣刃ノ斧ナリ、

たねうす

○種ヲマク前ニ水ニヒタシ置クコトナリ

たかさし

○板ニテ棚ノ様ニ仮リニ渡シタル橋ヲ云

たかは

○鞦ヲ遣フ手縄ナリ

たむろ

○揉ヲ訓ム、直キ物ヲ曲ゲ、又ハ曲レル物ヲ伸スヲ云、但シ此歌ニテハ、揉ムルヲ溜ムルニカケテ云ヘリ、

たむる

○溜ムルナリ、物ヲ多ク集ムルヲ云、

たむけの神

○道祖神ヲ云、旅立ノ時ニ祭ルナリ、

たむけぐさ

○手向種ナリ、種ハ品ノ意、草ハ假字ナリ、

たのむれかり

○又タノモノカリトモカク。田面ノ鶴ナリ。

ためめ

○タノミニサセル。人ヨリ我ヲ賴ニ思ハシムルナリ。

たぐ

○手繰ルナリ。万葉ニ綜ト書ルヲ見レバ。布モテヨレル縄カト或人云ヘレドイカヾアラン。

たく

○闌ヲ訓ヘ。日タク。春タクナド云。月日ノ影又ハ時ナドノ。十分ニ移リスグルヲ云ヘリ。

たぐふ

○ソヘル副

○ソハヤヲヤル

○又類比等ヲモヨヨム。歌ニヨリテ訳シ方タガヘリ。

たやすし

○容易ナリ。タハヤスシトハノ字ヲソヘテモ云ヘリ。

たまさう

○俗ニ同シ

たまぐし

○大神宮式ニ、賢木ノ枝ニ太綿ッケタルヲ太玉串ト云トアリ。今祭ノ庭ニ白紙ヲ結付ケ用ヰルハ此畧ナリ。

たまかーは

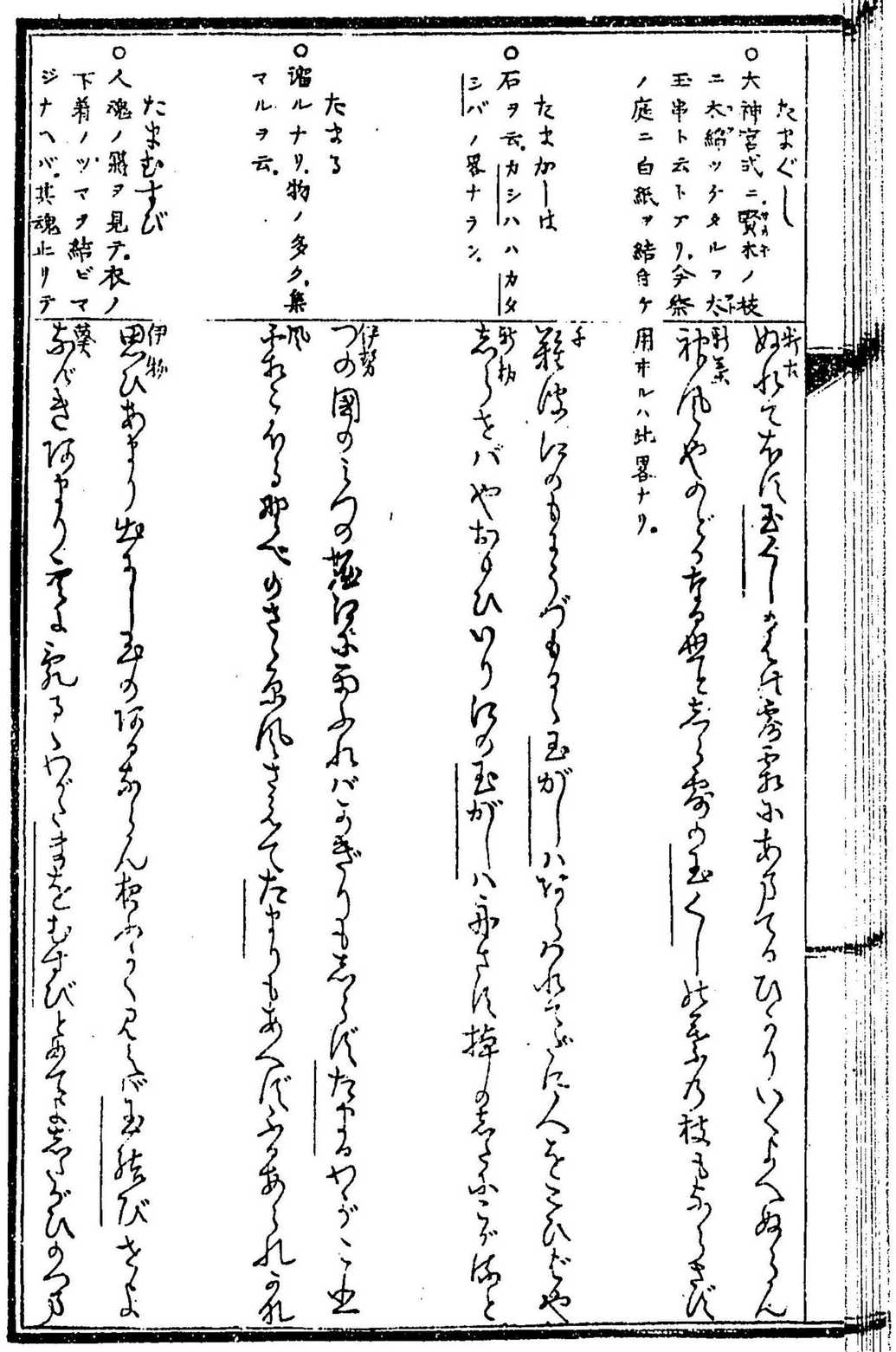
○石ヲ云。カシハハカタシバノ畧ナラン。

たまる

○溜ルナリ。物ノ多ク集マルヲ云。

たまむすび

○人魂ノ飛ヲ見テ、衣ノ下着ノツマヲ結ビマジナヘバ、其魂止リテ



モトノ主ニカヘリ死セズト云古キコトワザアリシナラン。

たけ

○人ノ髮ヲ云。物語ノフミニ、タケ高クナド見ユ。俗ニ丈ノ字ヲカケリ。

たけのそのー

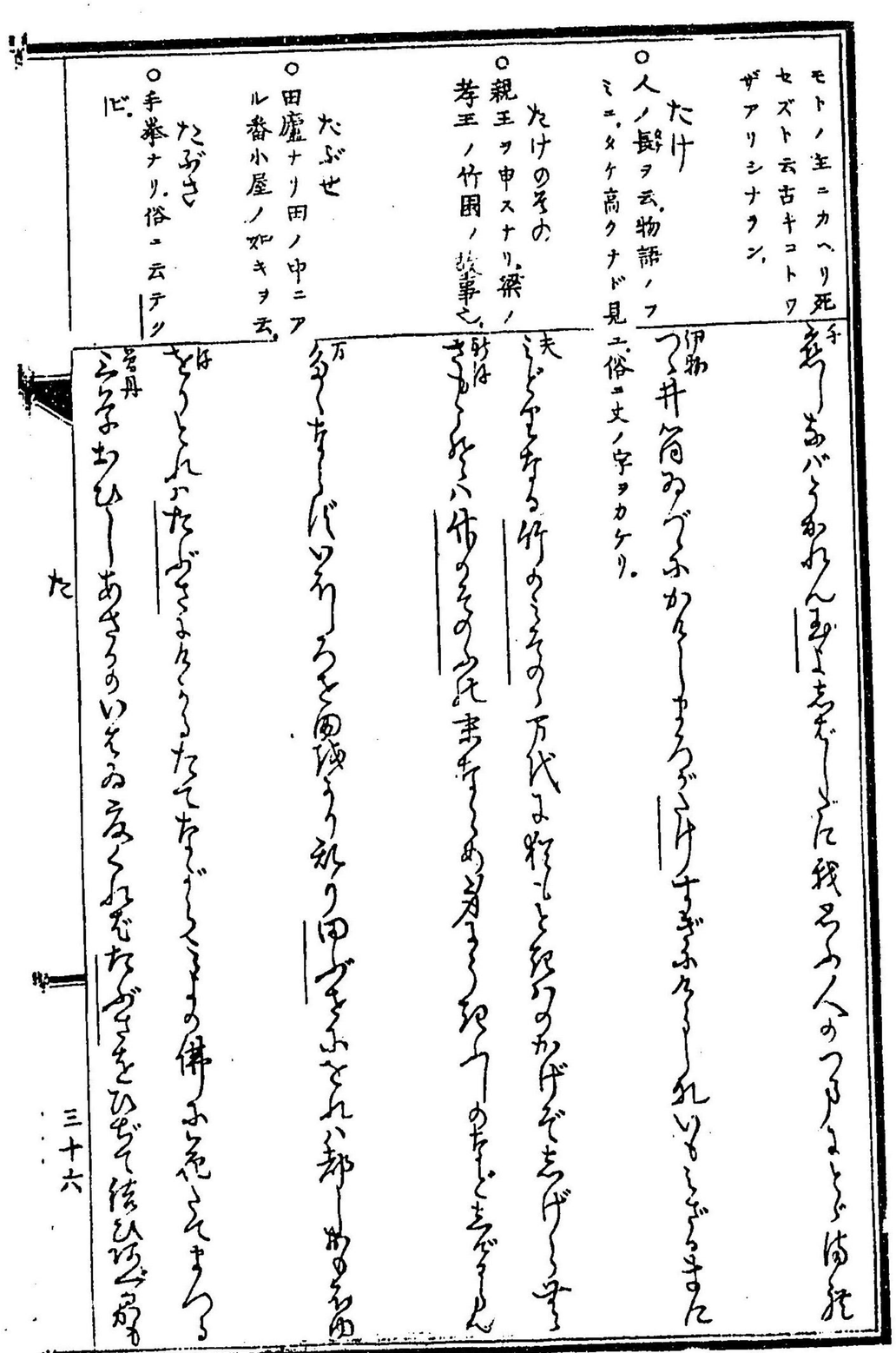
○親王ヲ申スナリ。梁ノ孝王ノ竹園ノ故事ニ。

たぶせ

○田廬ナリ田ノ中ニアル番小屋ノ如キヲ云。

たぶさ

○手巻ナリ。俗ニ云テリビ。



たご

○農業ヲスル男夫ヲ云

たえて

○絶テ之。俗ニカイシキマルデ」ナド云ヘリ。

たて

○楯也。敵ノ矢物矢玉ヲ防グ板ノ類。

たぎる

○滾ル沸ナリ。ワキカヘルノ意。瀧ト云モタギリ落ルヨリノ名。

弟季 たごの山田のさなかに引つれてきたゝゆる田のそきハ

夫 いなごとふいわりたごのかゝ花よりあてのあぐひちき

古 世中はたえてさくらのなかりせバはるの心ハのどけからまし

万 やまとにしの鞆のあまもこの人つ矢たてるつしも

狩太 川のせにあぎるをこれぞ玉もゝちろ紅きそはるはうそとあ

狩太 物ゝ山ゝハたぎりて流るゝ事やこれふるさとしもせど

たぎつ

○前ノ意ト同ン。心ガワキカヘルナリ。

たゞく

○今俗ニ「ダル」ト云フ「之。文章ニテハ「ウツタウシク」ユキトゞカズ」ナドノ意ニ聞ユルモアリ。

たゆむ

○怠ルナリ。油断スルナリ。俗ニ「ダルい」ト云ヘリ。垂レ弛ムノ義ナルベシ。

たゆたひ

○ユタ〳〵スルヲ云。タヨ〳〵ニ近シ。万葉ニ躊躇不定ヲヨメリ。

古 ゝ川の山ちのあらがくれてたぎつこゝろよせきぐらよあ

新拾 いさゝ川のあゝこぐれてたぎつ心を人ハさ〳〵ち春

古 見つゝもたゆんすのあれやゆゝてもたゆくこゝろ知も

古 見つゝめちきわくゝをこゝとさゝよゞやかれゐではるのそたゆゝる

令 今ゝて嬉ぎよかゝる丁うよいちゆきたゆくやゆきこゝゝん

出拾遺 ゝ風のむすの浦風ゆゝ新のたゆ雲吹ゝ月ハこゞれ

万 たゝ船のさゝつゝきりあこゆゝひふすのるひやせぬ人のゝゆゝ

俗ハ拾 見ゝ川の山ゝゝゝ雨ゝゝゝのたゝちゐゐゐひりのを社ありく

たゞらふ
○タムル孫ト云コトバノ延ビタルニ。コヽニタメラフハ躊躇ノ意ニ。

ためし
○例ヲ訓ム。俗ニテホントト云フ詞ニアタレリ。

だゝ
○韍ノ訓レヲ云

たじろく
○和訓栞ニ立退ノ義ナ敵ルベシ。リツノ反ロナ

樟ちゝのめしのふねの月うげのいしをのくんてかくりぬるこれ
ものくふありきたくはいをくもくもみをきものためをくさをめん
ほつびてちゝめてをくもいはさるさるきは世のあめくちもちゝめぐきぶ
ふりをする神ぐふかれのあうをばあ代のきめくふいをとひるまし
物名 あつまうをとかりれくる人のよハちだくてこれをものハひひをれ
山家 ゆくををのをつれ谷の家をれどもだくるあハちゝあしけを
夫 をれめるたじろくやをの船乃ようを早くえるもる村面の我くら
ルベシ。リツノ反ロナ 風ふかバをちくやどの板をくみやぶれよりふちのぶくろ

リト云ヘリ。サモアルベク覚ニ。

たしろ
○俗ニ同シ

たひら
○平ヲ訓ム

たきつせの
ハヤキ
○瀧川ノ水ノハヤキヲ。心ノハヤリタルニ云ヨセタリ。

たらちねの
ハハ
○赤子ヲ育ト。日月ヲ足ラシメ。ヒトヽナスハ。母ノワザニ。因テ日足

方 ゆくををのをつれ谷の家をれどもだくるあハちゝあしけを
古 ふるををのをくくををををくくををををくくををを

ラシ根ノ母ト云。此日ノ字ヲハブキ。シトケト通ハセ。根ト云フホメコトバヲ添ヘテ。タヲチネト云ヘルセ。

たまくしげ　ミ フタ アケ オ ホフ

玉櫛笥ナリ。ウツクシキクシバコヲ云ヘリ。カヽリソ意明ラケシ。

たまほとの　ミ チ

○鋒ノ身ヨリ。道ノミノ声ニカヽリタルナリ。

たさ木こは　カマクラ山

○新ヲ伐ル鎌トツヾケシノミ

そばだつる　夫

○歌又側ヲヨム。高ク傾

万 むくげおりふをやまゝけてゆゝで男ゞ名ハたゝ吾名ゝとお

古 タつゝよちかつゝあきをまくてげふゝの浦ハけてこれゝ名

万長 玉緒の道ゆきゝしあをゝるゝのゝやもの」下畧

万動 さゝもちゝばゝそんゝをゝるゝゝゆきゝづにゝるゝてかゝゝん

万 栽うる種蒔やまゝゝ本をゝゝとあゝいゝゝ名ゝやたゝん

夫 宮あけて山のそこゝゆゝつまのゝちふ枕そけゝて月をみるこゝ

曽の部

そば〳〵し

○カドミ〳〵シト云フガ如シ。椒魚ノ多キヲナリ。喰咀ヲソバト云ヒ。蕎麦ヲソバト云フモ。皆カド〳〵シケレバ。シカ名ヅケタルナリ。

菊宴

うたゝ寝のゝ行ふ山の椎ゞ木ハ枕そをゝ〳〵ゝ床ゝ〳〵あゝ行ふ

江 ゝ川の山ゆのそ白づゝちゝゝびてゝゝとうかゝゝのねをゝゝ名紅ぬゝ

夫 かゝふゆふゝそゝるゝゝかひゝ名ゝいゝゝゝゝゝばつゝまゝゝせよ

そほづ

○紫山ヲノヲナリ。或説ニ山田ノ露ニヌレソボツヲ以テ名トスト云ヘリ。

そぼつ

○俗ニ云ビッショリヌルヽヲ

市 かぎゝふゝおゝゝゝゝゝにそぼちぬる神ハかわゝゝゝ逢ん月までホ

円物名 ゝゝゝゝゝ

そぼふる

○シメドヽト降ル之

そへる

○サウナラサウヨ

そり

○反ヲ訓ム、弓カナドノソリノ如キヲ云。

そり

○橇ヲ訓ム、北国ニテ雪中ニ乗リ走ラスル具ナリ、底ノ形ソリタル故ニシカ云ナラン。

そがひ

○万葉ニ背向トカクリ。

ウシロノ方ヲ云。

そよ

○ソレヨナリ、思ヒ出デヽイヒ出スコトバ、又驚クコトバニモナルナリ、多クハ稲葉笹ナドノソヨヽトナル音ニ云ヒカケタリ。

そよ〳〵

○ソレヨ〳〵ナリ、意前ニ同シ、此例ノ歌ニナハ葉ノ音ヲカネテヨメリ。

そよぐ

○葉ノソヨヽヽト動クナリ、戦ノ字ヲ訓ム。

○ソヨグノ意ニ同ジ。メクハ形容ニシテヲドヤカニ同ジ。ナドゴノメクニ同ジ。

○ソレモ
デハアレマイカ。ソレハアラウカ。

○ソレモ
ニシテソレノレヲ異ニシテソレヲタ。ナレラナレ。ナシ。バソレヨリ。

○ソノ
岸ノガ水際ノガ

○ソヨグ
ソヨグ

○ソレ
ソレ

○ソレ
ソレ

○ソレ
ソレ

フモ同シ。

そらおれ
○ソラハ虚ナリ。オボレハ老耄即ボケルヿ。俗ニソラトボケルト云語アリ。是ナリ。

そらめ
○ソレトタシカニ見留メヌナリ。今俗ニ見ル夫ト云フ。

そらもふし
○ソラハサマニ近シ。音ニテ様トモ云。俗ニモ常ニ云フナリ。

はてのたをあるあくといひてはなきまろ　そのみのこれ
わうなをあるあぬきるもちんまちごろ　もぐれする実ハなくなる
契ハつうとせひてあるもれごろ　おびれまるまのうれ月
光ありと見ゆるのこそかはそれどきのそ月ちりも
多ぐねくるこもこのもざうそこそこうハそこえちうう
はがうの玉のせをとうしぎもれあるうのたうそ　ぎれふき
山里のありをそうるタ雪ふうちゆんそこもふきこちして

そのをとあく
○ソレガサウトナシニ

そのうち
○其神ニ、ニハ勢時ヲ兼タリ。

そのかし
○當時ナリ。後ヨリシテソノ時ヲ指ス。

そこ
○其所ナリ

今ようハうまゆくやまでれ月ひとそのこ　ちくちまをこおちろう
ろうとふるのやうろれそのうこのうきこころハ今もやまれば
夫山里ようあるこれそのかこれそ落をけけこてのけこ
念想里ろうあるぬ志なうもう国そのうみの芝れまやこひかこん
ひこ山ちうるあくこ　そのかこハむろんこもれるハざうこを
思てでちまのやうるうぎようちもれそこそこうぬ核ひこてが
九條ようあのうこるもちやあうこうれそおここうるちびりうこれあうそう

そこだく

○若干ヲヨメリ。イクソバクニ同ジ。多キ意ナリ。

和差

そこたの

○ソコト定マルコトモナキナリ

井ヒ

そこひ

○カギリモナキモノ。海川ノ深キヲ云。ソコ井ト書クハワロシ。

古

そでつきけ衣

○官服ハ端袖ヲツクル故シカ云ヨシナレド。万葉ニコフハタノ袖

ほ

万

そでつけ衣

○官服ハ端袖ヲツクル故シカ云ヨシナレド。万葉ニコフハタノ袖衣トアレバ。官服ニモ限ラヌニヤ。

そゝかくだ

○奥儀抄ニ。修行者ヲ云フトアリ。和訓栞ニ。蘇天民説。礼ノ儀蘇民將来平孫繁昌ノ符ナドヲ人ニ与ヘ門戸ニ掛シムルヲモテ。名トセルナルベシト云。

今按

雅言解巻二終